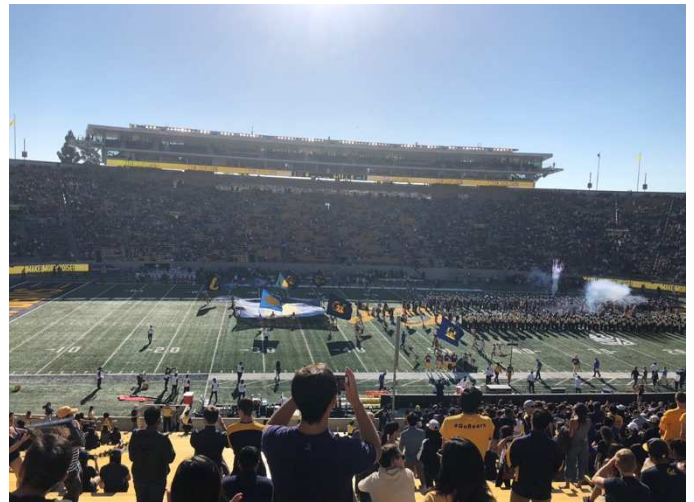


山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

カリフォルニア大学バークレー校における、約1年弱にも及ぶ留学は、日本では決してできない経験、出会い、学びの連続であり、一生ものである「生きる指針」を得ることができた。本報告書では、留学における実体験に基づいてアメリカで得た知見、考え方、それに伴って変化した価値観や未来に対する現在の「生き方」を報告させて頂く。



留学で身についた力として、主に2つあげられる。

まず一つ目として、多様な人種間でのコミュニケーションの中で、自己を主張する力を身につけた。日本人の特徴として、相手や組織、所属コミュニティにおける意向を尊重し、個人の意見を全体の総意に合わせる、主張よりも共感に重きが置かれていることが多いと感じてきたため、そういった環境で生まれ育った背景の元に、カリフォルニアの多様性極める環境において意見を主張することは、自覚以上に意識して主張する必要があると身を以て実感してきた。特に非ネイティブとして、英語を使用しての議論は、母語を極力介在しない思考の中、知っている表現の範囲内での表現に発言が留まってしまったり、文化の違いから仔細なニュアンスが伝わり辛いシーンが多く存在するため、思うように表現できないストレスや、相互理解の困難な状況に直面することが多い。異文化を理解するということは、異なる文化を受動的に受け入れることだけでなく、違いを主張し、お互いの異なる背景からくる発言や行動、習慣を認識し合うことであり、その中で共感や受け入れることが難しい部分等を主張し合っていく必要があると学んだ。すれ違うたびに異なる人種と出会う環境設定において、これまでの常識が通じない状況に多く直面し、当たり前としてきた考え方では、理解が難しい数々の出来事への遭遇は日常茶飯事であり、前述した主体的な異文化理解への姿勢が、自身の考えを理解してもらう事、そして他文化との違いを理解するために必要で

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

あると考える。

2つ目は、多様な背景を持つ人々の間に立って、議論やプロジェクトを遂行していく際の日本人としてできる立ち回り方を実体験を通して学んだ。グループワークやディスカッション、グループで行う課題に対して、各々の目的やモチベーション、異なる参加意欲に基づいて、それに取り組んでいるため、様々な参加のスタンスが存在する。バークレー校の学生達は、それぞれが抱えている授業や宿題、予定の数が非常に多いため、それぞれの授業やプロジェクト、課題への優先度の比重を調整しながら膨大な予定を消化している。そのため、チームとして物事を進めていく際に各人の事情を配慮したタスクの割り振りはもちろんのこと、その活動で掲げる目標に対する共通認識を持ってもらい、積極的な参加を促していくことも同時に必要であると感じてきた。私自身、大学院生用に開講されている授業を受講するため教授に直談判し、交換留学生ながら特別に受講を許可してもらった授業内でのチームプロジェクトにおいて、多様な背景を持つ大学院生達とチームとしての目的を達成するための協働を成立させる働きかけに力を入れてきた。特に、主張が強い人、参加意欲やモチベーションの低い人、授業の受講スタンスが異なり意見が周りとは合わない人、等に対して、まずチームとして達成すべき目標への共通認識をフラットでカジュアルに対話する機会を意識的に設け、目的への方向性を合わせ、それぞれの専門性や授業に期待することを考慮し、私自身がそのプロジェクトで成し遂げたいことを熱意を込めて伝えることで、最初はバラバラであったチームプロジェクトも一丸となってその成果を学期末に発表するまでにまとめることができた。多忙な学生同士の活動において、目的への共通認識があって、はじめて多様性が良い方向へ機能することを学んだ。達成への方向性は同じながら、その見方や考え方、アプローチの仕方の違いから学べること、自身の意見を主張すること、日本人として、全体としての動きを尊重し、総意に向けて議論を扇動することで、チームメイト個々の意見を引き出しながら、目的達成に向けて調整、意思決定を下す立ち回りとして貢献できることを学んだ。英語力や主張する力だけでなく、全体から見た自分のポジションを理解し、目的から逆算したここへのアプローチ、全体調和に向けての調整は日本人として出せる価値であると考えている。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



留学を通して、これまで目指していた夢を今一度深く考え直す機会に恵まれ、そこから自身が没頭して追求していける夢を新たに見つけることができた。私は将来、生まれた場所に関わらず、興味関心やモチベーション、努力が社会にアクセス可能な世界の実現に貢献していくビジネスマンになりたいと考えている。水、電気、ガス等のインフラ不足による問題に喘ぎ、道路の整備の行き届かない地域においても、スマートフォンにアクセスできることやインフラ施設においてもビッグデータやIoTに接続されていく未来にテクノロジーへの深い可能性を抱き始め、アメリカでもテクノロジーを用いた社会問題解決に関する授業、VRアプリケーション開発の授業も専攻とは別に受講してきた。世界は日本のトレンドとは逆行し、人口が急激に増加していくのと並行して、世界の各地で都市化が劇的に進む。それに伴って地方と都市の格差が教育や機会格差を始め、並存する多様な問題が絡み合い、各種問題が深刻化していくと考えられる。私は来たる5G時代、またその上で発展するコンテンツへのアクセスによって、生まれ育った環境や人種、貧富等に関係なく物理的、身体的弊害を取り除き、興味関心やモチベーション、努力が社会にアクセス可能な世界の実現に貢献していきたいと考えている。日本は特に高齢化、人口減少に伴う労働人口の減少、人口の都市流入等、過密化する都市と過疎化していく地方の問題の両方が世界でも最先端をいく課題先進国と呼ばれて久しいが、それらをテクノロジーによって解決する事で。世界にそのモデルを展開していける優位性を持っているとも考えられる。それを可能にする技術の到来が社会に浸透していくためには、自動車に乗って出かける、約束をして人に会いにくい感覚でITを日常ニーズや社会参加を満たす一手段として当たり前使用前に使用する土壌を形成していく必要があると考える。社会インフラとしてITが生活に根付き、誰

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

もがテクノロジーへ当たり前にアクセスできる社会の実現へ貢献できるビジネスマンとして、その展開に貢献し、将来はテクノロジーを用いた地方問題解決のモデルを世界に展開し、前述の自身の夢を追求する事で、世界を豊かにしたい。

私自身が山梨県富士吉田市に生まれた地方出身者として、また途上国の血を持つ背景を持つものとして、ローカルにおける問題、途上国、先進国間の格差、またそれぞれの地における各種問題へ触れてきた者として、日本の力で世界を豊かにしていく想いを抱き、これまで勉学や海外での挑戦に挑んできた。特にこのアメリカでもITの集積地に位置し、多くのテクノロジー人材を輩出している大学で学ばせていただいた事で、「生まれた場所に関わらず豊かな生活を享受できる」社会への実現に最も効果的であると考えられるテクノロジーへの関心を強く抱くことができ、来年度よりその目標へと近づくことができると考える進路を選択することができた。これまでの歩みは決して自分一人だけでは実現することは大変難しく、ましてや家庭の経済状況からアメリカ留学は到底不可能であったために、本奨学金プログラムをはじめとしたご支援があっただけで実現できた挑戦であったため、心から感謝を抱くとともに、自身の学びを日本社会へ、また次世代へ還元していきたいと考えている。特に私のような地方出身者で地方公立大学に通い、ハーフとして生まれたアイデンティティを持つ者として、情報、機会格差、また差別偏見に苦しむ人たちへ、頑張りや報われ、高い志は社会が助けてくれるため、努力次第で道を切り開くことができることを自身の生き方を持って示していける存在になるべく、夢への追求に邁進したいと考えている。

留学中、奨学金需給の手続きや危機管理サポート、また中間報告書ならびに実績報告書等の手続きを担っていただいた担当の方々、また本奨学金事業に多大なる感謝を申し上げますと共に、今後ますますの次世代への留学支援事業の発展を心より願っております。

